

## 令和2年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

# 地域経済動向調査まとめ

令和2年12月値（令和2年2月1日発行）

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域の経済動向が、全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しています。事業活動の参考にいただければ幸いです。

### 調査データ出先

| 調査名（実施機関）             | 調査対象            | 調査対象期            |
|-----------------------|-----------------|------------------|
| 西播磨地域景況調査（西播磨県民局）     | 管内中小企業者等4業種140社 | 令和2年10月～令和2年12月期 |
| 兵庫県の経済雇用情勢（兵庫県）       | 兵庫県の中小企業        | 令和2年10月～令和2年12月期 |
| 小規模景気動向調査（全国商工会連合会）   | 全国約300商工会による調査  | 令和2年12月期         |
| たつの市中小企業景況調査（たつの市商工会） | 管内50事業所         | 令和2年10月～令和2年12月期 |

たつの市商工会

# 目次

I 産業全体の業況の推移

II 調査範囲別景気動向

III 業種別経済状況

① 製造業

② 建設業

③ 小売業

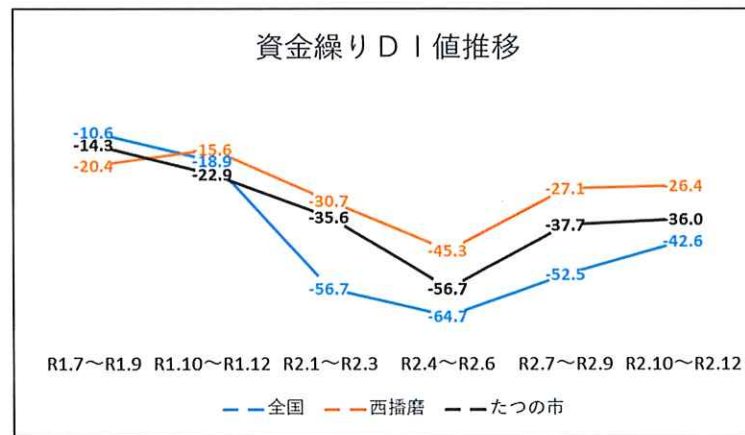
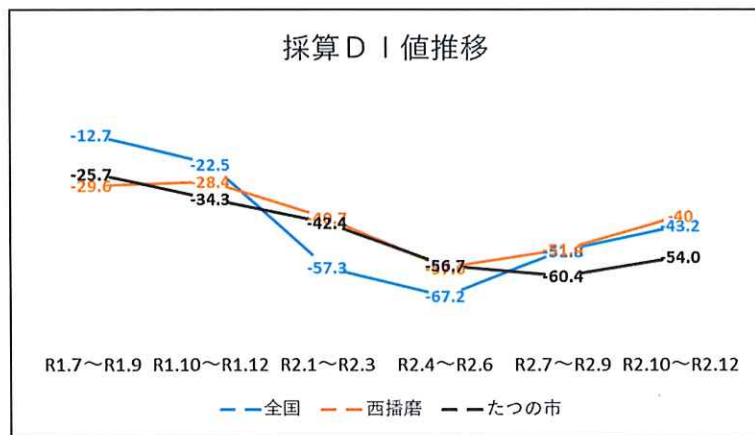
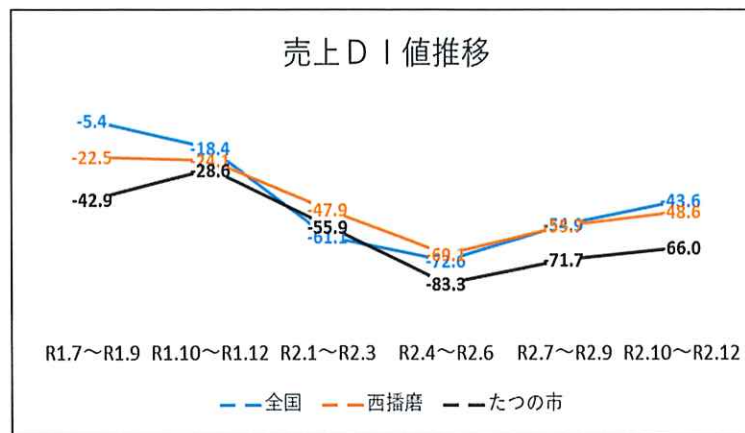
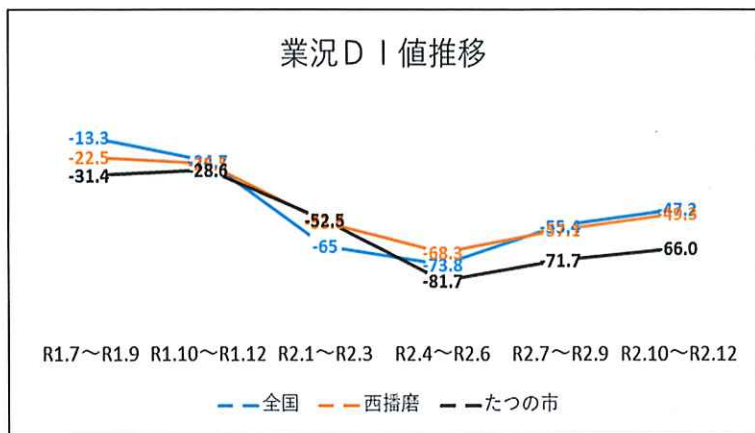
④ サービス業

⑤ 業種別DI値比較

IV 雇用状況

V 総括

I 産業全体の業況の推移 <DI値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す>



<概要>

前回調査時からDI値は全体的に改善されたが、小規模企業の景況は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にある。全国、西播磨、たつの市の業況は、ほとんどの調査項目で改善されているが、世界経済が大きく減速する中で、製造業を中心に景気の先行き不透明感が強く、業況判断DIは依然低い水準にとどまっている。

## Ⅱ 調査範囲別景気動向

### <全国>

2020年10-12月期の全産業の業況判断DIは、(前期▲55.4→) ▲47.2(前期差8.2ポイント増)となり、前期から改善した。製造業の業況判断DIは、(前期▲65.5→) ▲51.3(前期差14.2ポイント増)となり、前期から大幅に改善した。建設業の業況判断DIは、(前期▲45.6→) ▲29.3(前期差16.3ポイント増)となり、前期から大幅に改善した。商業の業況判断DIは、(前期▲55.6→) ▲48.2(前期差7.4ポイント増)となり、前期から改善した。サービス業の業況判断DIは、(前期▲54.7→) ▲60.1(前期差5.4ポイント減)となり、前期から悪化した。サービス業以外の業種は前期に比べれば、大きく改善されたが、コロナ禍以前までの値には回復していない業況である。

### <兵庫県>

県下企業の業況判断は、持ち直しの動きが見られるものの、足もと、先行きとも依然として厳しい。個人消費は、足踏みの動きも見られる。生産活動は、持ち直しの動きが続いている。輸出は持ち直しており、設備投資は、増加計画にある。有効求人倍率は、低下しており、賃金は、弱い動きとなっている。

### <西播磨>

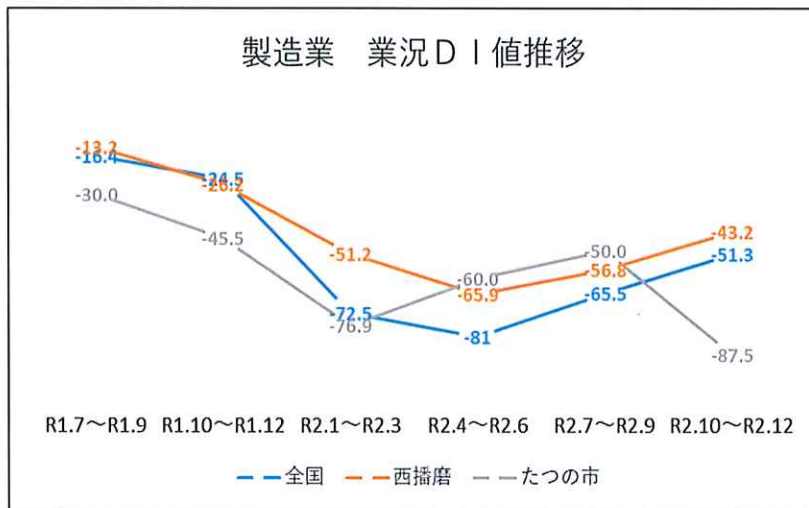
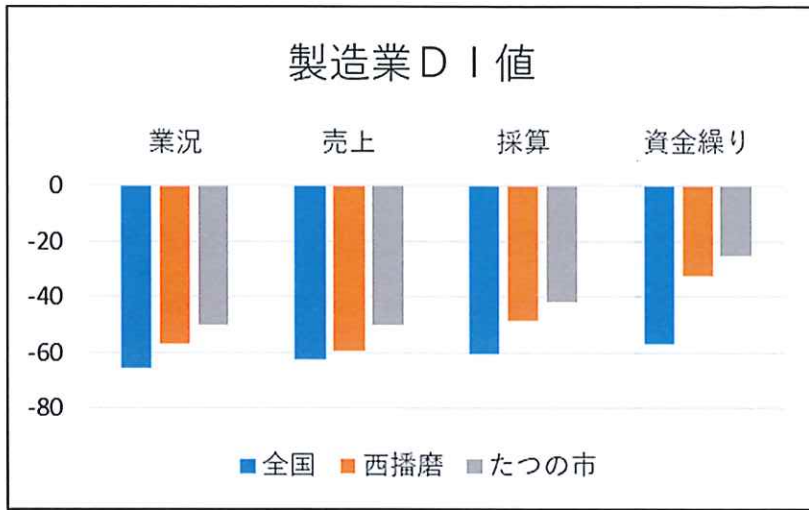
西播磨全体の業況は(前期▲57.1→) ▲49.3(前期差7.8ポイント増)と改善、売上高は(前期▲55.7→) ▲48.6(前期差7.1ポイント増)と改善、採算状況は(前期▲51.4→) ▲40(前期差11.4ポイント増)と改善、資金繰りは(前期▲27.1→) ▲26.4(前期差0.7ポイント増)と改善。来期は(前期▲39.3→) ▲46.4(前期差7.1ポイント減)で悪化する見込みとなっている。全国と比較して業況、売上、採算においてはほぼ同じ数値となり、資金繰りは大幅に下回った。

### <たつの市>

たつの市の業況は(前期▲71.7→) ▲66.0(前期差5.7ポイント増)と改善、売上高は(前期▲71.7→) ▲66.0(前期差5.7ポイント増)と改善、採算状況は(前期▲60.4→) ▲54.0(前期差6.4ポイント増)と改善、資金繰りは(前期▲37.7→) ▲36.1(前期差1.7ポイント増)と改善。来期は(前期▲43.4→) ▲54.0(前期差10.6ポイント減)でやや悪化するとの見通しとなっている。業況、売上、資金繰り、採算において改善はみられたものの、来期の見通しは悪化しており、売上の減少や人件費等の経費が、圧迫や緊急事態宣言発令の不安もあり先行きが見通せない状況である。

### Ⅲ 業種別経済状況

#### ① 製造業



#### <全国>

製造業は、7カ月連続で全DIが改善した。食料品関連は、巣ごもり需要の継続及び年末年始の買いだめ需要により、内食向けが堅調である。一方で、感染再拡大を受け、観光客の減少に伴い、宿泊施設や外食産業へ納品している食料品製造業の売上は、下降に転じている。機械・金属関連は一部では回復傾向にあるが、元請けからの発注が減少しており、稼働率が低下しているとの声が目立った。繊維関連は、依然として、マスクや防護服等の売上は好調であるものの、全体的には生産調整等により厳しい状況が続いており、今後不安が残る。

#### <兵庫県>

業態によって回復度合いが異なり、一部回復の兆しが見えていたが、感染再拡大を受け、全体的に厳しい状況が続き、今後も不安要素の拡大や見通しが悪い。

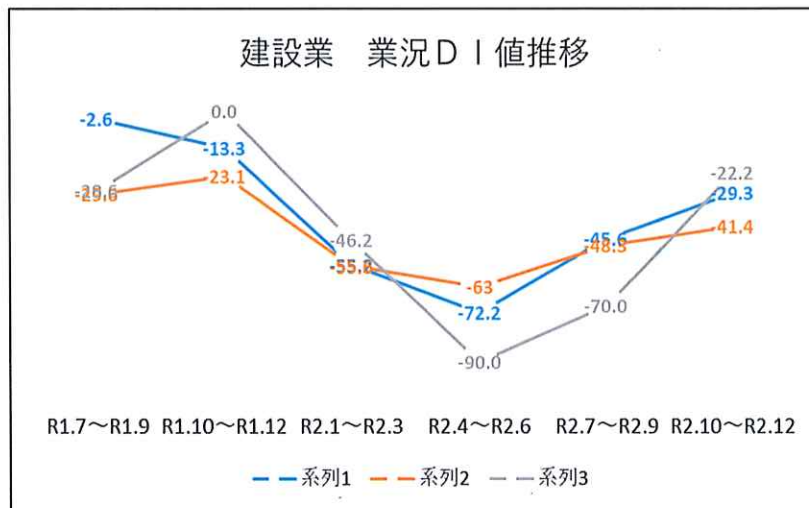
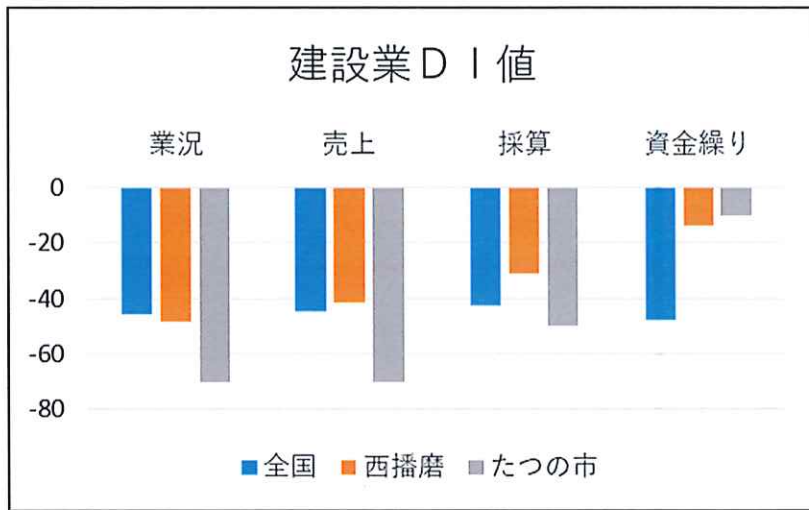
#### <西播磨>

食品製造業においては、外出自粛による巣ごもり消費で、個人向け商品が好調となっている一方で、それ以外の業態では、前期と比較し回復傾向にある地域もあるものの、全体的には売上・収益が悪化し、依然として厳しい状態が続いている。海外船舶の流通がコロナ禍で停滞しており、材料不足が発生している。

#### <たつの市>

たつの市の業況DI値は（前期▲50.0→）▲87.5（前期差37.5ポイント減）と前期より大幅に悪化している。春～夏頃のコロナ禍の影響が、業種により遅れて、出はじめている。全国、西播磨地域の景気動向と同様、業態によって回復度合いが異なっている。

## ② 建設業



### <全国>

建設業は、7カ月連続で改善し、学校休業要請の出された2月期の水準に迫るまで回復してきた。公共工事が堅調であることに加え、一部地域では、降雪による除雪需要や災害復旧工事の需要があり、全般的に好調を維持している。また、民需の住宅関連でも、年末大掃除に向けたハウスクリーニングや、リフォーム工事等の受注が好調である。しかし、今後の受注見込みが減少傾向にあることや、資材調達難等により、先行きを懸念するコメントが目立った。

### <兵庫県>

公共工事による下支えに加え、住宅関連においても、リフォーム工事等が徐々に増えてきているものの、大きな回復には至っておらず、依然として厳しい状況が続いている。

### <西播磨>

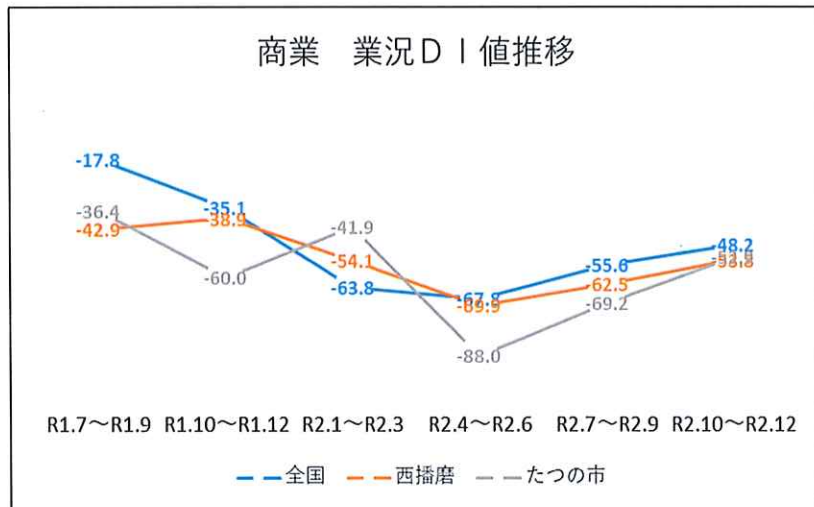
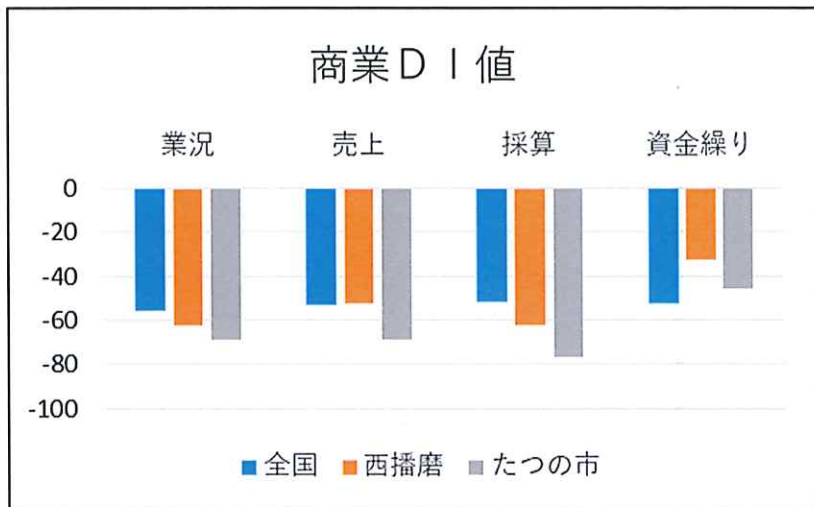
公共工事を受注している企業は好調であるが、公共工事以外をメインとしている設備工事業はコロナウイルスの影響を受けている。住宅メーカーも見学会等のイベントを開催できず、新規客の獲得が難しい状況となっている。建設業全体的に悪化しているが、資金繰りの項目の落ち幅が大きい。設備投資を控える傾向が懸念されていたが、まだ影響は出ていない。

### <たつの市>

(前期▲70.0→) ▲22.2 (前期差 47.8ポイント増) と大きく改善された。新型コロナウイルス長期化の影響はあるものの、少しずつではあるがリフォームなどの見込みが増えており、着工の契約件数も増えている。業種業態によって景況感にばらつきがみられる。



### ③ 商業



#### <全国>

小売業は、3カ月連続で改善したものの、ほぼ横ばいであった。食料品関連は、年末年始の帰省等の自粛の代替として、お歳暮等が好調との声もあり、また、引き続き内食や巣ごもり需要も好調であるものの、例年と比べると厳しい状況にある。衣料品関連は、感染再拡大に伴い、外出を控える傾向が強まり、厳しい状況が続いている。耐久消費材関連は、引き続きウイルス対策関連の商品（空気清浄機、加湿器等）や、買替の時期のため（冷蔵庫、洗濯機等）の売上が好調であるものの、通販や大型店に需要が流れているとの声も寄せられている。

#### <兵庫県>

耐久消費財は新型コロナウイルスの影響が続いており、大手では一部持ち直しの企業もあるが、小規模事業者ははまだ厳しい状況が続いている。衣料品関連も、感染拡大に伴い、外出を控える傾向が強まり厳しい状況である。

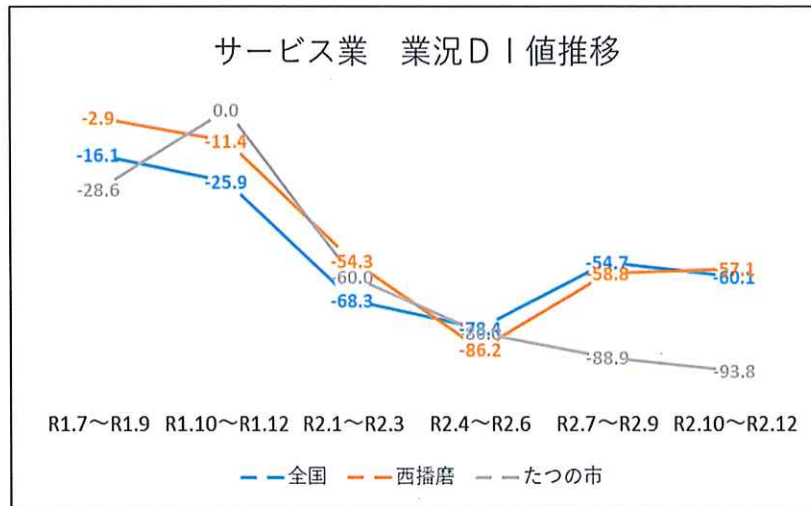
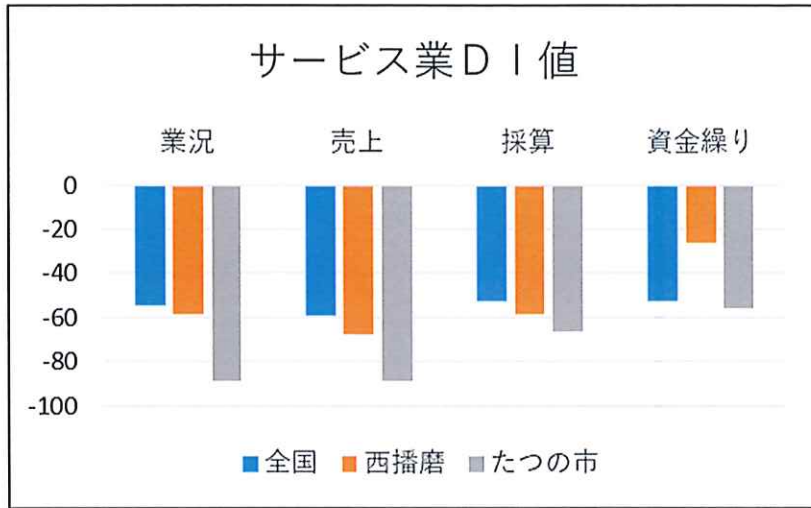
#### <西播磨>

商業では、前回調査と比較し「やや悪い」の回答が減り、「やや良い」が増えた地域もあった。

#### <たつの市>

（前期▲69.2→）▲52.9（前期差16.3ポイント増）となっている。第3波の影響で、巣ごもり需要が継続しており、飲食料品関連と感染予防対策の衛生用品などの売上は増加している。自粛傾向で人の動きが鈍く、衣類や進物関係の売上が伸び悩んでいる。

#### ④ サービス業



#### <全国>

サービス業は、2カ月連続で全DIが悪化となり、特に売上額DIは11ptの悪化となった。宿泊業は、9・10月期がGoToキャンペーン等の効果で大幅な回復となったが、11月からの全国的な感染再拡大に伴い、予約のキャンセルが相次ぎ、業況は再び悪化し、9月期以下の水準に落ち込んでいる。また、飲食業も忘年会需要がすべてなくなったなど悲痛な声が目立った。理美容業の一部で、年末の需要で顧客が戻りつつあるとの声もあるが、サービス業全体としては、感染拡大の収束が見込めないため、今後の業況の更なる悪化を懸念するコメントが多く、予断を許さない状況である。

#### <兵庫県>

特に県内各地の観光地に於いて、GoToキャンペーン一時停止による景気後退の影響が強く見られた。県下全域に於いて宿泊業、これに関連する飲食、クリーニング業者といった広い関連業種に影響が波及している。接客機会の多いサービス業全般に於いて、今後益々感染予防対策の徹底、サービスの変化が求められる。

#### <西播磨>

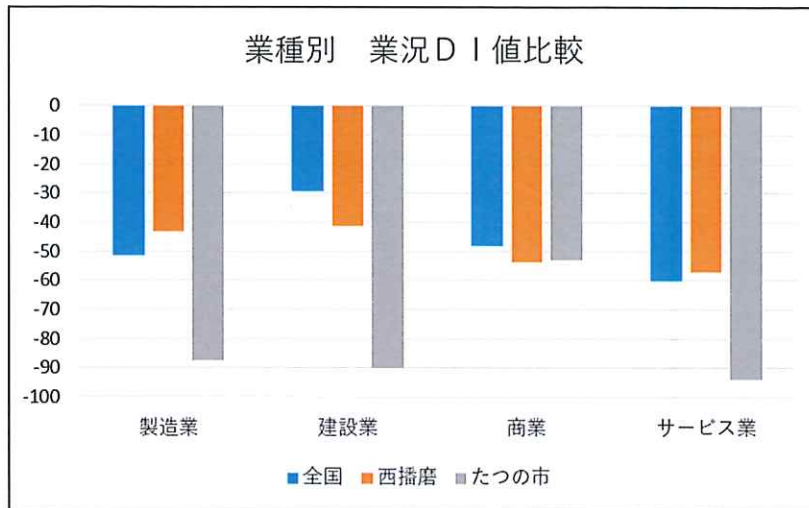
商業では、前回調査と比較し「やや悪い」の回答が減り、「やや良い」が増えた地域もあった。飲食店では各市町が発行するグルメ券の効果もあり、コロナ禍以前の8割程度まで回復したが、12月の忘年会シーズンに感染拡大した事で、団体客のキャンセルが相次ぎ、例年と比較してかなりの売上減少となった。依然として厳しい状況が続く。

#### <たつの市>

(前期▲88.9→) ▲93.8(前期差4.9ポイント減)と悪化。飲食業では、団体予約が激減。年末年始の忘年会や新年会の多くはキャンセルとなり、テイクアウト商品等を提供しているが、現状回復までには程遠い。



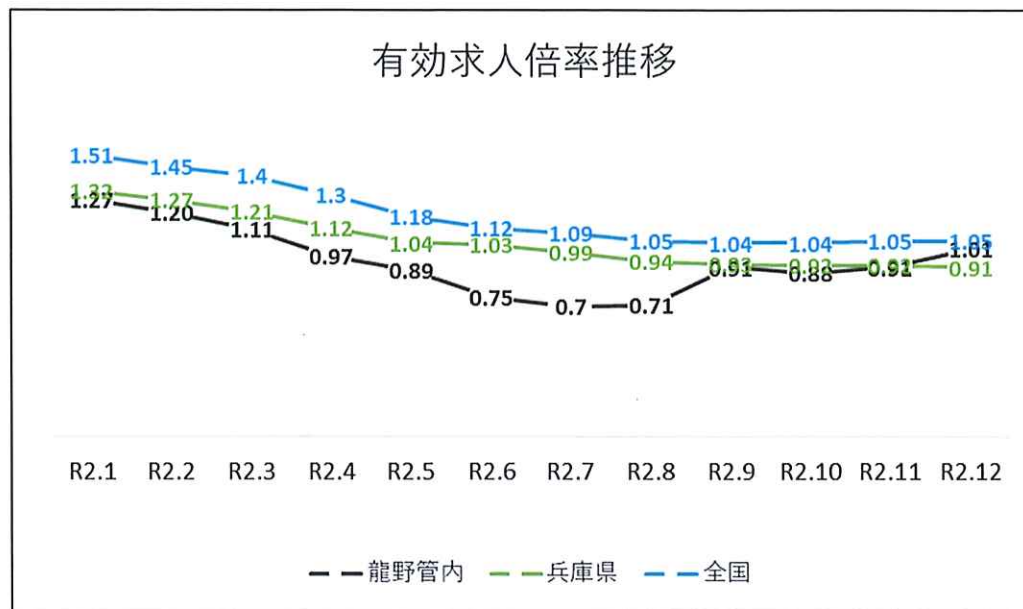
## ⑤ 業種別 D I 値比較



全国的には、小規模企業の業況 DI は、7か月連続で改善となったが、改善幅は7か月中で最も小さく、ほぼ、横ばいであった。全国的な新型コロナウイルス感染症の感染再拡大を受け、GoTo トラベルの一時停止や、地域によっては外出自粛要請が発出された等の影響により、消費の落ち込みが見られ、先行き不透明な状況である。経営指導員からは、これ以上長期化すると、地域全体に疲弊が目立つため、事業の継続が困難な事業者が増加する恐れがあるとの声が多く寄せられた。

たつの市においては、製造業、建設業、サービス業については、全国、西播磨を大きく下回りマイナス幅も大きく、不況となっている。商業については、前期よりは回復しているものの依然マイナスが顕著であり、コロナ禍の影響や大型店への顧客集中化が進んでいる。

#### IV 雇用状況



令和2年12月期の有効求人倍率は、全国1.05倍、兵庫県0.91倍、龍野管内1.01倍となっている。令和2年1月期から、全国、兵庫県、龍野管内すべてにおいて減少傾向が続いていた。しかし、令和2年9月の龍野管内では、0.91倍から1.01倍へ増加傾向に転じた。兵庫労働局は、1月の県内有効求人倍率（季節調整値）は0.95倍で、7カ月連続で1倍を切った。前月と比べると0.04ポイント上昇。新型コロナウイルスの緊急事態宣言により求職活動を控える傾向がみられ、同局は「厳しい状況にある」として基調判断を据え置いた。有効求人数は前月比2.3%増え、有効求職者数は2.6%減った。新規求人数（原数値）は前年同月比12.4%減の2万8347人。産業別の人数ベースでは、宿泊業・飲食サービス業（前年同月比41.4%減）の減少幅が最も大きかった。管内業種別では、医療関係や介護等の専門サービス業や地場産業である素麺製造業での不足感が強く、今後も一旦は回復したが、新型コロナウイルスの影響により、厳しい傾向で進むと予想される

※有効求人倍率：求人数 ÷ 求職者数（例 仕事が20件 求人応募者10人 なら 2.0倍）

## V 総括

国内景気は、業種によって回復に差がみられたものの、持ち直しの動きが表れた。景気は2020年5月を底に持ち直しを続けてきたが、新型コロナウイルス陽性者数の増加を受けた営業時間短縮要請などから年末にかけて弱い動きとなっている。2021年1月に緊急事態宣言が再発令されたことから、年明け以降は対面型サービス消費を中心に経済活動が再び落ち込むことは避けられず、2021年1-3月期はマイナス成長となることが予想される。

たつの市においては、新型コロナウイルスの感染症拡大防止に配慮しつつ、経済活動の再開が進んでいたが、再び緊急事態宣言が発令を余儀なくされる可能性が高まり、飲食業では忘年会、小売業では年末の売り出しなど消費の縮小が見られるなど、大きな影響を受けはじめている。巣ごもり需要の取り込みにより、一部の業種では売上が増加したとの声がある一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、幅広い業種で受注量や客数の減少から業況は厳しい状況にあり、さらに先行きの見通しが立たず、一層の業況悪化を懸念する声も多数みられた。

以 上